

# Microsoft Office Access 2013 Manual

---

テーブルの使い方

# 基本的な使い方

---

## テーブルとは

テーブルとは、データベースの最も基本となるものです。前説でも紹介しましたようにデータベースとは図書館のようなものです（詳しくは基本的な使い方を参照）。

このデータベースにいれる【情報】を、きれいにまとめて種類わけをする、本棚の役割をする物をテーブルと言います。この本棚となるテーブルにごちゃごちゃのままの【情報】を入れてしまうと、かえって後から探し物（以下【検索】と呼びます）を見つけにくくなってしまいます。ですからこの説では、後から【検索】しやすいテーブルを作るための方法を、順を追って説明していきます。

# テーブルの構成

## データシートビュー

テーブルは表の行にあたるレコードと列にあたるフィールドで構成されます。Excelのワークシートのような表をAccessではデータシートと呼び、データの表示や編集を行います。データシートが表示される画面をデータシートビューといいます。

注文番号	氏名	郵便番号	都道府県	住所	ISBN	クリックして追加
1	きたもりお	606-0803	京都府	京都市左京区	4757513860	
2	にしたかし	606-0804	京都府	京都市左京区	4063405230	
3	あやべ子のこ	606-0805	京都府	京都市左京区	4091874320	
4	ながおかきよこ	606-0806	京都府	京都市左京区	4592143019	
5	みなみやまし	606-0807	京都府	京都市左京区	4088652738	
6	やぎさき	606-0811	京都府	京都市左京区	4592132223	
*	(新規)					

- 
- ◆ タブ・・・表示するオブジェクトを切り替えます。
  - ◆ レコード・・・テーブルの1行分のデータをレコードといいます。  
複数項目のデータが1つずつ集まって1件のレコードとなります。
  - ◆ フィールド・・・レコードを構成する項目で、1つのフィールドには同じ種類のデータが入力されます。
  - ◆ フィールドセレクトア・・・フィールド名が表示されます。

# デザインビュー

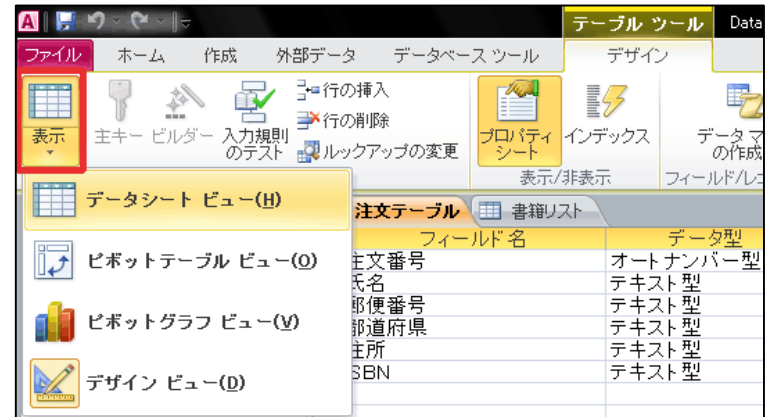
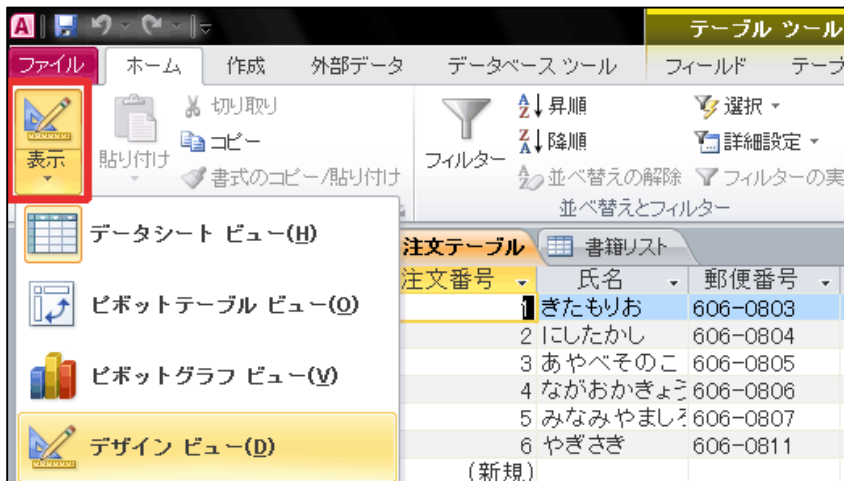
デザインビューはテーブルを定義する画面で、集めるデータの内容をここで定義します。項目名やデザインの種類を定義し、データの表示方法やデータを正確に効率よく集めるための各種設定を行います。

- 
- ◆ **主キー**・・・それぞれのレコードを区別する基準となるフィールドの組み合わせのことです。
  - ◆ **フィールド名**・・・フィールドの名前を設定します。
  - ◆ **データ型**・・・フィールドに入力されるデータの種類を設定します。
  - ◆ **説明**・・・フィールドに対する説明を入力します。入力した内容は入力した内容はデータシートビューのステータスバーに表示されます。
  - ◆ **プロパティシート**・・・選択している項目に対する詳細な設定を行います。
  - ◆ **フィールドプロパティ**・・・データシートビューでフィールドに入力するデータの入力方法や表示方法の設定ができます。

# ビューを切り替えるには

1: データシートビューを開いている場合はデータシートタブ/デザインビューを開いている場合はデザインタブ→表示グループの表示を選択します。

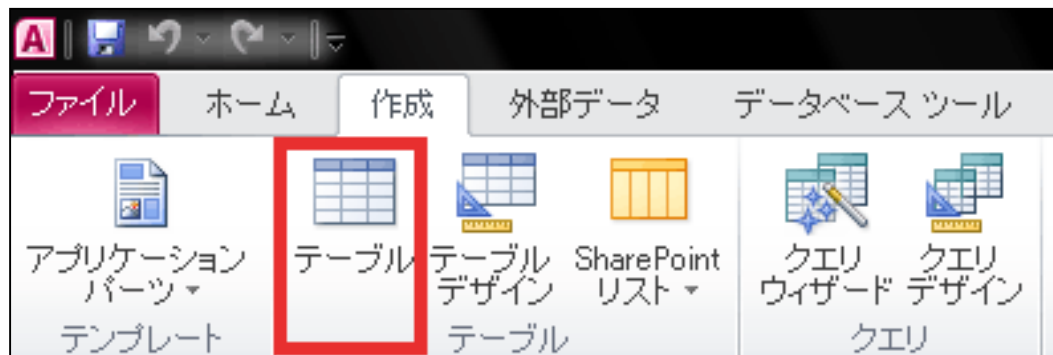
2: ビューが切り替わります。



# テーブルの新規作成

---

1. データベースダイアログを表示したまま、作成タブ→テーブルグループのテーブルを選択します。



2. すると新規テーブルがデータシートビューで表示されます。



# フィールドへの入力方法

---

## フィールドとは

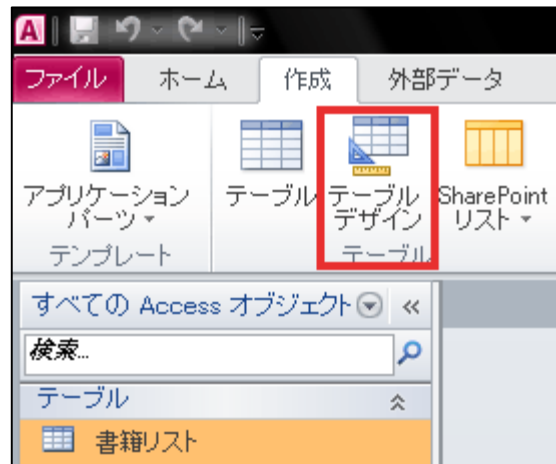
フィールドとは、テーブルという本棚の1つ1つの枠の事です。このフィールドの中に【情報】を入れていきます。

## フィールドへのデータ入力方法

作成タブからテーブルグループのテーブルデザインをクリックします。

---

次のようなフィールドが表示されたら、作りたいデータベースの  
情報(ラベル)をフィールド内に入力していきます。





- 
- **テキスト型**・・・文字列などと、計算する必要のない数字のデータに使用します。
  - **数値型**・・・計算用の数値データに使用します。
  - **メモ型**・・・長い文字列、数字などに使用します。
  - **日付／時刻型**・・・日付、時刻のデータなどに使用します。
  - **通貨型**・・・通貨などのデータに使用します。
  - **YES/NO型**・・・二択などに使用します。
  - **オートナンバー型**・・・自動的に数字が与えられ、レコードを区別するために使用します。(数字の修正はできません)
  - **OLEオブジェクト型**・・・画像や音声アプリケーションなどのデータ格納に使用します。
  - **添付ファイル型**・・・ファイルの添付などに使用します。
  - **ハイパーリンク型**・・・WebページのURLやメールアドレスなどに使用します。

フィールド名	データ型	説明
注文番号	オートナンバー型	
氏名	テキスト型	
郵便番号	テキスト型	
都道府県	テキスト型	
住所	テキスト型	
ISBN	テキスト型	

2:フィールドプロパティで設定を行います。

### ① フィールドサイズ

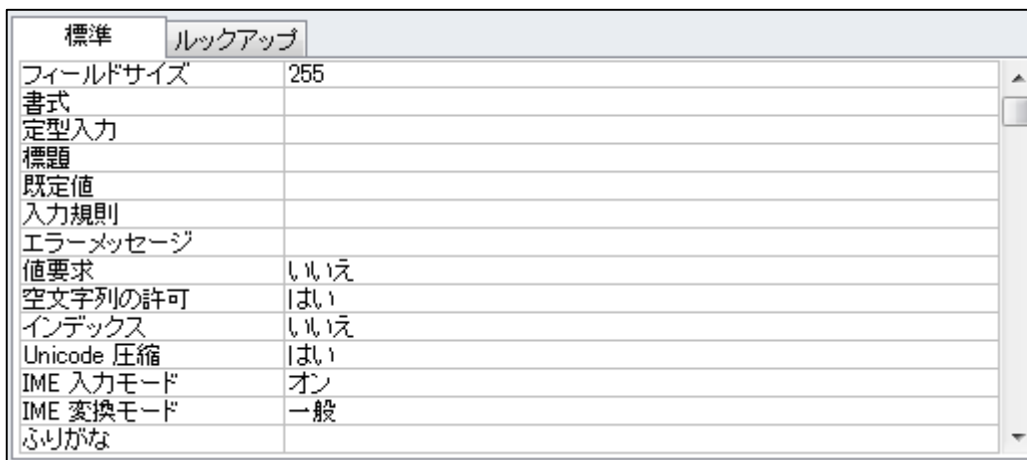
- **データ型**が**テキスト型**の場合・・・半角で入力できる文字数を入力します。
- **データ型**が**数値型**の場合・・・数値の型を指定します。
- **データ型**が**通貨型**の場合・・・通貨の種類を指定します。

## ② IME入力モード

フォーカスがフィールドに移動したときのIME入力モードを指定します。

**オン**・・・初期状態が日本語入力になります。

**オフ**・・・初期状態が半角英数字入力になります。



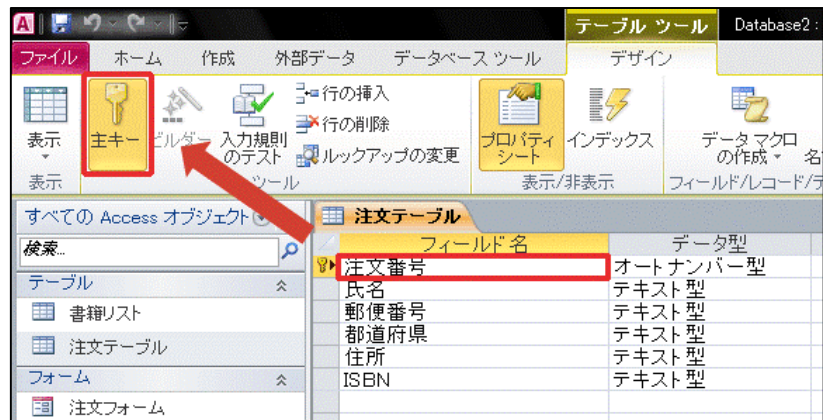
標準	ルックアップ
フィールドサイズ	255
書式	
定型入力	
標題	
既定値	
入力規則	
エラーメッセージ	
値要求	いいえ
空文字列の許可	はい
インデックス	いいえ
Unicode 圧縮	はい
IME 入力モード	オン
IME 変換モード	一般
ふりがな	

---

### 3:主キーを設定します。

主キーは、テーブルに保存されている各レコードを識別する時に使います。

主キーを設定しておくこと、同じ内容のデータの重複入力を防ぐことができます。



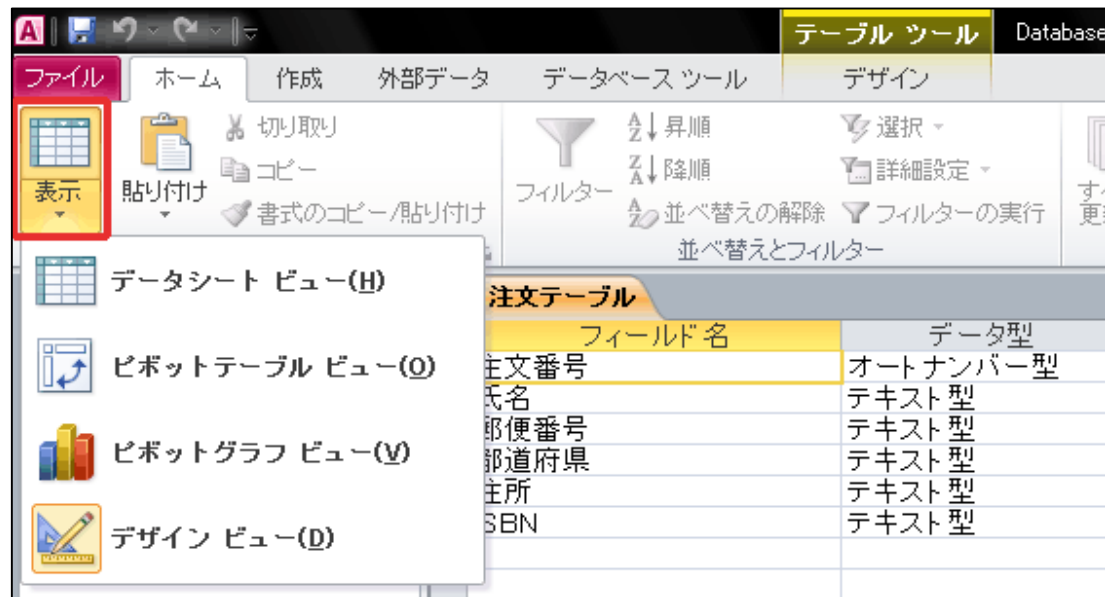
主キーにしたいフィールドを選択します。

デザインタブからツールグループの主キーをクリックします。



4: 注文テーブルタブ→右クリック→上書き保存を選択します。

5: デザインタブ→表示グループの表示を選択します。



6:それぞれのデータを入力します。

注文テーブル						
注文番号	氏名	郵便番号	都道府県	住所	ISBN	クリックして追加
1	きたもりお	606-0803	京都府	京都市左京区	4757513860	
2	にしたかし	606-0804	京都府	京都市左京区	4063405230	
3	あやべそのこ	606-0805	京都府	京都市左京区	4091874320	
4	ながおかきょう	606-0806	京都府	京都市左京区	4592143019	
5	みなみやまし	606-0807	京都府	京都市左京区	4088652738	
6	やぎさき	606-0811	京都府	京都市左京区	4592132223	
*	(新規)					